

大洲高校人権だより

令和5年6月号

6月14日（水）に今年度1回目の人権・同和教育ホームルーム活動が行われました。

学年ごとに共通テーマを設け、各クラスで積極的な活動が展開されました。

学年テーマと担当生徒の感想をご紹介します。

1年「差別の現実学ぶⅠ」—よりよい人間関係—

今回のホームルーム活動では、人権について改めて知ることができました。班で活動をしたことで相手と自分の考え方の違いを感じながら、その状況の場面での対応を考えられました。小学校、中学校で人権に関しての集会や授業は何度もしてきましたが、高校に入学して初めての人権についての授業をして、昔とは違う考え方を持つことができました。人はそれぞれ傷つくことや感じるものが全く異なっています。毎日のさりげない言葉の一つ一つで、人によっては傷ついてしまうことがあります。ですが、発言をする前に相手の気持ちを考えることができれば、傷つく人が減っていくのではないかと思います。今後、人と関わる上でとても役立つ授業でした。

1年2組 山本 彩乃

2年「人権の歴史Ⅱ」—「解放令」出る—

今回の人権・同和教育HR活動では、解放令や、差別と闘った人々について学びました。私たちの班では、その中の児島惟謙さん（1837～1908）について調べました。被差別部落の人々が、八坂神社の祭礼に参加できないことを訴えていたけれど、裁判官が差別容認の判決を下していました。ですが児島さんは、被差別部落の人々が祭礼に参加できないのはおかしいと判断し、それより前の判決をくつがえしました。そして、法律面での差別解消に大きな道筋を開きました。この人たちのように、差別解消に大きく貢献することはできないかもしれませんが、身近な人に対して親切にすることから心掛けていきたいと思います。

2年1組 後藤 幌介

3年「同和教育の解決を目指してⅠ」—確かな進路保障のために—

今回の人権・同和教育HR活動では、社用紙と全国高等学校統一用紙の構成項目の違いから、就職差別につながるおそれのある項目について話し合いました。社用紙と全国高等学校統一用紙を見比べると、保護者や家族の氏名、年齢、続柄、本籍などの項目がなくなっていました。これらの項目はいずれも本人の能力、適性、意欲を判断する上では不必要であり、差別につながるおそれのある項目です。このような差別につながるおそれのある不適切な質問には、「答えない・書かない・提出しない」ということが大切だと学習しました。差別の加害者にも被害者にもならないために、今回学んだことを、自分のこととして捉えて、これからの生活を送っていきたいです。

3年4組 駄場 俊